

あごら

MINI

〈9号〉

1977年 9月10日発行 ¥100 丁50

今月のなかみ

〈随想〉 隣の女……………1	〈問題提起〉 化粧品は、顔の農薬……………2
〈会員へ〉 あごら全国大会会場決まる……………4	〈集会から〉 日本母親大会・第二回婦人研究者の会……………5
〈あごらメイト〉 田村美佐子さん……………6	〈読む〉 自分を変える本・烙印の女……………6
黄昏のロンドンから……………7	〈実務シリーズ〉 やさしい編集6……………7
〈女のつどい・女の講座〉……………8	〈お知らせ〉 各地のあごら例会……………8

〈あごら〉は会員の出した基金と年会費および雑誌〈あごら〉〈あごらミニ〉の売上で運営されており、どの企業、どの政党、どの団体からも1円の援助も受けていません。年会費は婦人問題総合情報誌〈あごら〉(A5 180ページ)ととも4,000円。〈あごらミニ〉のみ購売の場合は2,000円(いずれも送料とも)です。会費・誌代は振替でどうぞ。

〈女と男〉のミニ雑誌〈あごらミニ〉 ●何でも言える

●何でも書ける●小さな〈ひろば〉=AGORA・〈あごら〉

●あなたの声を待ってます。下欄の編集部へどうぞ。

昔、私が働いていた職場に一人の青年が加わったことがある。どこかものうげな彼は、足が少し不自由で、ほとんど誰とも口をきかなかった。半年もたったころ、彼は先天的な不具者で、だからひねているのだという噂が職場に定着した。

暗い中にもどこか人恋しげな彼の目が私は気になった。ある日、「足」の原因を聞いてみた。彼は幼時に自転車にはねられた経験語り、それを糸口に自身をもっと率直に私たちに示すようになった。彼は本質的には明るかった。人間が心の奥深くしまっている「思いこみ」を突き崩すことは容易なことではない。しかし、人には「思いこみ」がありがちで、それを崩す可能性があると気がつくだけでも、窓は少しは開く。人と人との心がすれちがったり、うまくかみ合わない、と、「あの人は聞く耳を持たない」とか、「言っても通じない」といった言葉をとかく口にしながら、相手が聞く耳を持たないのか、それとも自分の語りかけが不十分なのか、ラベルを貼る前に考えてみるべきことは多いのではあるまいか。

人と人とのコミュニケーションの根本は、まず自分の心を解き放すことにあるようだ。自分や他人に対する「思いこみ」で、自分をかちかちに武装していると、相手の心も武装されてしまう。しかし、武装＝自己防衛機制は、いつ

ごろ、どこで、どんなふうにな構築されたのか、自分ではなかなかわからないことが多い。それをときほぐす一種の集団心理療法として、「ヘコンシヤスネス・レイジング」(意識高揚・略称CR)を、私たちは昨秋から試みているが、少しずつ効果をあげている。自分を見つけ、自分と仲よくなることは自信を増し、他人をより多く、より豊かに受け入れるようになることが、自らの経験として確認されていきつつある。

「リブ」ということはおどろおどろしい響きを人に与えているが、私たち「あごら」が考えているリブとは、まず自分を知り、隣の女のこととも考えらるという簡単なことだ。自分の壁を取り払い、壁の分だけふくらめば、隣りとの距離はおのずと近くなる。人に手をさしのべなくとも自分がしつかりと立っていれば、隣りの女がよろめいたときバシッと受けとめていけるだろう。女だけではない。男たちとも、より率直に、より真実にコミュニケーションしていけるのではあるまいか。

十月の「あごら全国大会」は、こんな「隣の女」たちとの出会いの場であろう。心ひらいて二日一夜を語り明かしたい。

秋浅し 隣に豊かな女あり



隣の女
斉藤千代

表-2 化粧品危害のメーカー別一覧 (50.4~52.3)

メーカー名	件数	(100.0%)	メーカー名	件数	(100.0%)
ボザカ	24	18.8	ローラン	1	0.8
生	18	14.0	ドリ	1	0.8
ネー	12	9.4	ラルミ	1	0.8
ボセ	5	3.9	美	1	0.8
ン	4	3.1	工業	1	0.8
花王 (ニベア花王)	4	3.1	所ル	1	0.8
王石 婦進 (東京実業)	3	2.3	業一	1	0.8
地	3	2.3	ル	1	0.8
ナマ	3	2.3	一	1	0.8
ハ	2	1.6	家	1	0.8
ホ	2	1.6	薬	1	0.8
レ	2	1.6	品	1	0.8
ソ	2	1.6	会	1	0.8
オ	2	1.6	館	1	0.8
メナード (中部メナード化成)	2	1.6	学	1	0.8
メ	2	1.6	研究	1	0.8
キ	2	1.6	所	1	0.8
エ	2	1.6	ド	1	0.8
ニ	2	1.6	ン	1	0.8
名	1	0.8	ス	1	0.8
メ	1	0.8	ン	1	0.8
レ	1	0.8	ボ	1	0.8
ナ	1	0.8	タ	1	0.8
レ	1	0.8	ン	1	0.8
ナ	1	0.8	ボ	1	0.8
ル	1	0.8	化	1	0.8
ベル	1	0.8	学	1	0.8
ラ	1	0.8	健	1	0.8
	1	0.8	学	1	0.8
	1	0.8	C	1	0.8
	1	0.8	粧	1	0.8
	1	0.8	イ	1	0.8
	1	0.8	明	1	0.8
	1	0.8		128	100.0%

われているが、もう一つの毒性である特殊毒物発ガン性・遺伝毒性などについては放置されていることを指摘している。

化粧品中の発ガン疑惑物質としては、色素、重金属類、防腐剤、酸化防止剤、ヘアダイ、香料があることを詳述し、強い警告を発している。

小さな口紅一本にも、約三十種の化学物質が含まれている。化粧品に許可されている色素は約九十種にのぼるが、ほとんどはタール系色素であるという。ウサギの耳にタールを塗ってガンを発生させる実験が行なわれるのは周知の事実だが、そのタールを日夜すりこんで、はたして無害であり得るだろうか。

食品添加物としてはタール系色素は一

●お倉は建つても倒産はしない

大阪市などの主婦十二名が、資生堂など化粧品会社五社を相手どつて一億二千五百余万円の訴訟にふみきつたことは、大きな話題を呼んでいるが、「黒皮症」というほどではないにしても、いつのまにかシミがふえ、肌が黒ずんできた経験を持つ人は少なくない。化粧品という「化

種類しか許可されていないが、体内という光のとどこかない暗黒世界に入った場合と異なり、顔という皮膚表面で光を受けるとした場合の光毒性化による突然変異も懸念される。市販の各メーカーの口紅にされている。実験結果では、二割強が陽性で注目されている。

膚の傷害が定着しているのに、前述の主婦の手記のように、元凶である化粧品には全く疑いを持たず、ホルモンや食事のアンバランスである、**“**何と多いことか。皮肉なことに傷害された皮膚はさらに化粧品を必要とするかのような錯覚を与え、ちようど農薬を与えられた畑土同様、**“**拡大再使用**”**されていく。

「昼夜二部興行制」に次ぐ第二の手は、夏と秋冬で化粧品を変え、季節変動性である。夏は水性、冬は油性と使い分ければ、化粧品の種類がふえるだけでなく、連続使用できなくなるため、中途で使い捨てられることになる。消費量は激増の一途をたどる。化粧品会社が倒産したという話は聞いたことがない。それどころか、P社などは、あり余る利益金の処分、に窮し、数億を投じて「文化研究所」をつくり、消費者への還元と称しているほどである。

●公娼制度の発達とともに普及

では、なぜこんなにしてまで女は化粧するのだろうか。化粧品の歴史は古く、古代エジプトでは紀元前二千年の昔からからだに塗る香油・乳液はもとより、ア

●毒と知りつつなぜ塗るの

梅毒の治療薬としても知られた水銀白粉は、その後、鉛白粉に地位を奪われたが、明治になって歌舞伎役者の白粉中毒が問題になり、今日の無鉛白粉が開発されるようになった。といっても、今日の化粧品も決して無害ではないことは前述したとおりである。考えてみれば、女は顔に毒を塗ってまで男の愛を得ようとしてきたわけである。

研究会で発表された実話がある。売上の予測は、ふつうは適中しないものなのに、S社の予測は誤差五%という高い精度を示した。なぜこんなにも適中率が高いのか。答は簡単だった。一定の年齢の女性は、必ず一定量の化粧品を使う。とすれば、ある「化粧年齢」の女性の人口推移率をあてはめていけば売上の推移は予測できる。これでは消費量を拡大できないと気がついたメーカーはアイデアを練った。味の素が振り出し口の穴を大きくして一挙に売上を伸ばしたような名案はないものか。考えに考えた末生まれたのが、化粧の「二部興行制」、すなわち、昼の化粧を夜は必ず落として塗りかえるとという案だったという。この案で、「化粧面積」は確実に倍増し、S社は急成長したという。

イシャドウまでつくられていたようである。日本では、白粉や紅よりも、いれずみやお歯黒（歯を黒く染める習慣）が化粧の主流であつたらしく、魏史倭人伝にも書き記されている。しかしこれは女だけの化粧ではなかつたようである。

奈良時代に水銀白粉が唐から伝えられたが、ごく一部の貴族が使用するだけのものであつたらしい。平安時代には香をたきこめ、姿かたちを装うことは貴族一般のたしなみとなつたが、女だけが装つたわけではなかつた。源氏物語などを読んで公達たちがいかに装つて女のもとに忍んでいったかがうかがわれる。

女の魅力を引き立てるものとしての白粉が普及したのは戦国時代以降のこと。特に江戸時代に入ってから、産座商品としての白粉が出回り、「女は素顔を見せる

表-3 化粧品毒性試験

動物に対するテスト	局所的	1 刺激一次刺激性 2 皮膚一次刺激性 3 累積刺激性	4 感作 5 光中品性 6 光感作
	全身的	1 経皮毒性 2 急性経口毒性 3 亜急性・慢性毒性	
人に対するテスト	1 パッチテスト	2 光パッチテスト	
	3 使用テスト		

しかし、そんな思いをしてまで得た愛は、ほんものの愛であつたか。外観の愛を得ることによって、女自身の地位はかえっておとしめられることになった。高年齢になり、外観の美を失った女は、男にとつて無用なものとなった。化粧によって、女は自らを消耗品におとしめてしまい、消耗品と化したことによって、ますます化粧を必要とするようになったのである。

毒を塗り、しかも自らをおとしめてまで化粧をすることの無意味さは、しかし新聞でも雑誌でもTVでも、ほとんど取り上げられないし、発ガン物質さえも心配される化粧品の毒性もキャンペーンされない。それはなぜだろうか。

化粧品は、薬、嗜好品と並んで、広告界の王座を占める。収入のすべてを広告に仰ぐ民間放送も、収入の基礎を広告に置く新聞、雑誌も、自分たちの生活を支える大スポンサーをどうして告発し得よう。それだけではない。化粧品は、男優位の社会を維持し続ける強力な武器でもある。女の関心、女の興味を、

出しする心配はない。化粧する女が大多数である限り、女は男に媚びを売るのが、社会の常識であり続ける。

●虚像についてやすエネルギー

「お見合い」をビデオ化することによって成功したある結婚仲介業者は、自らの仕事を「商品の流通」と称し、ビデオ撮りすることの最初の効果は、「自分が商品としていかに魅力がないかを知ること」と公言している。この場合の「魅力ある商品」とは、あくまでも、外観が魅力ある商品」という意味である。化粧産業を支える関連産業は、こういうところにもある。

しかし、文字どおり見事に化粧、見事に装つて、見事理想の相手にめぐりあつたとしても、それはほんとうに自分にふさわしい伴侶だろうか。男がほしがつたものは、その女の虚像にすぎない。男を喜ばせた虚像を維持し続けるために、女は虚像に自らのエネルギーを際限なく投入し続けねばならなくなる。しかも、女がどんなに努力したとしても、男は、いつかそれが虚像であることに気づき、より深い失望を味わうことになる。

●性の商品化の中で

木に花咲き、鳥が歌うように、自らの性をいかにふるは、動物の本能であらう。短い性の開花期に、動物も植物も、精一杯の装いで異性を誘う。しかし、ここではいつもメスだけが装うだけでもないし、装い方が商品化されるなどということはない。異性とのつきあいは、セックスということに口

限定された部分だけではないはずである。トータルな人間として互いを容認しあつてこそ、セックスという限定された部分も最高の美味になる。虚像をつくりあげ、トータルな人間の美しさを覆つてしまふ化粧は、本来、もっと豊かなはずのセックスさえも貧しくしてしまふのではないだろうか。

恐しいことに、化粧は、最近、男の間にも広まるようになった。これを男性の女性化とか、性の平等化とか喜んではいられない。なべて人間を商品にしようとする力の中で、私たちはどんなにほんろうされているのか。

●十は若い中国の女性

リブの女たちは、ほとんど化粧しない。おのれの実像に自信と誇りを持つためである。その女たちの実像は、何と美しいことか。

中国の旅から帰った人々も、化粧しない女たちの美しさを一様にたたえる。少なくとも彼女らに黒皮膚の心配はない。白粉も乳液も使わなくても、彼女たちは平均十歳は日本の女より若く見えるという。化学物質で傷害されない皮膚はつややかだし、外面を装うよりも内面を充実させた結果の輝きであらう。

長い間、秘し隠し続けられた化粧品の有毒性が、やっとあちこちで問題にされ始めたが、単なる消費者問題に終わらせず、女の生き方、人間の生き方とからみ合わせて、今こそ真剣に討論し、私たちの顔、私たちのいのちを取り戻したいと思ふ。

(S)

あごら全国大会は

十月二十九日(土)
十月三十日(日)

国立婦人教育会館で

あごら全国大会まであと二ヵ月。具体的準備段階に入りました。

会場は、国立婦人教育会館(十月開館)に決まりました。本誌十六号の資料にもありましたように、これは文部省の婦人関係予算の大部分を占め、国内行動計画の内容の乏しさを隠すものとして、各女性団体からは悪評高かつたものです。しかし設立された今となつては、むしろ積極的に活用することによって運営をいい方向に持っていくたいと、視察かたがた利用することにしました。初代館長の縫田曜子さんも大歓迎のよしです。

東京から少し遠いのが難点ですが、六十一億円の巨費を投じた、腰をぬかすほど豪華な施設を視察して、心ゆくまで語り明かしましょう。宿泊費が格安のうえ、清々しい環境は得がたいものです。保育室もあります。

同封の葉書に確認事項を記載のうえお送り下さい。締め切りは、十月十日です。ぜひ秋の予定に入れておいて下さい。

八号掲載のプログラムは、あくまで叩き台です。ご意見・妙案がありましたらどしどしお寄せ下さい。

また保父さんのお心当りがありません。またぜひご連絡下さい。

集會から

第2回婦人研究者問題全国シンポジウム / 第23回日本母親大会

日本母親大会

八月には異常の長雨がやつとやんだ。太陽もナラリ、だがひどくむし暑い。第二十三回日本母親大会に参加する人たちは、道々に立つ案内に導かれて群をなして会場に急ぐ。

二十八日だけで四十四の分科会、生活、教育、母親運動、平和と独立、マスコミ等を網羅。主会場の立教大学は、どの会場も立錫の余地もない。「働く婦人と権利の問題」では、実際に不当に解雇された訴えが涙ながらに続く。うなずき、熱心にメモをとる人。共感の拍手。「生きがいのもんだい」では、樋口恵子さん(助言者)が「育児はほんとうは育自——自分を育てることなんだ」と。

文京高校では、主として、教育の問題が話しあわれている。子供を毒する俗悪、類廃文化をどうなくしていくか、よい子供文化をどう発展させていくか、など。親子映画を作っている人から、発言あり。

二十九日は、問題別集会。「国内行動計画と私たち」をのぞいてみる。パネリストと会場の発言は全くかみあわない。会場からは、自分たちの地域でどのような活動をやっているか、という紹介発言ばかり。いわゆる活動家ではない女のもっと素朴な疑問や同意をすくいあげるのは無理というものだろうか。

第一回目の母親大会が母として妻として女としての苦しさや切なさを共に分かちあった。泣き、の大会であったことはよく知られている。それから二十三回目。その間どのような変遷があったのか知らないのだけれども、本大会では老いも若きも、過去日本の女が背負ってきた呪縛からは解放されているようにみえた。少なくとも呪縛が一度涙のカタルシスを経て

解かれるプロセスを経ているようにはみえなかった。ステキにしゃべっている人もジーンと無化粧の女も生き生きしていた。

京都から来た、という人。「私、高教組の婦人部やの。行けつていうからきてみた。ええ、おもしろい。となりの人、ふつうの主婦なんやけど、「いいわね。私も行きたいわ」そやけど、実際には来られへん。ほんとうは普通の母親、隣りの母親もイコイコとつれだつてこられるとええねんど」と。

組織に入らない、普通の母親も連れだつて参加する母親大会は不可能なのだろうか。(K)

婦人研究者問題

全国シンポジウム

ここに一つのレポートがある。ある大学で二十三年間助手として勤めてきた婦人研究者の手記である。その一節に「……国立大学では非常勤講師で講義をし、博士号もとり、夜昼の勤務をし、大学院の指導もし……、そのように勤務していても助手なるがゆえに給料は同期生の中学教員より少なくとも月二万円は低い……」という部分がある。「大学で研究している」「女性といえはいかにエリートのように聞えるけれど、その実態はこんなものだ」という例証といえよう。彼女が出産したときは、カリキュラム上ということで規定の産休を二週間もカットして出勤しなければならなかった。

七月三十一日の二日間、東京駒場の東京大学教養学部で開かれた第二回婦人研究者問題全国シンポジウム(主催日本科学者会議およびシンポジウム実行委員会)は、こうした悩みと怒りを抱く、あたりまえの女、たちの集まりだった。会場の条件はひどく悪く、

「暖房完備」といいたいほどの暑さだった。

そんな条件だったけれど、二百人集まってくれば、というわたしたちの願いを上まわる約二百四十人(男性を含む)の参加があった。

秋田の農村地帯にある短大からひとりやってきた若い女性もいた。「職場でも若い女性教員はひとり。下宿へ帰るまでに人っ子ひとり会わないようなところで、さびしくつて出てきました」という。オーバードクター三年目の大学院生もいた。「どの分科会に出ようかと考えた末、在野」の分科会に出ます。今わたしは職もほしいけれど、そのメドが立たない以上、たとえ在野でも研究を続けていける条件とはけませんがほしい。

分科会は、一日目が分野別ということで自然科学・社会科学・人文科学・家政学の四分科会、二日目が問題別で在野・私立大学・国立大学・国立試験研究機関・民間企業研究所・大学院・運動のすめかだの七分科会だった。一九七五年国際婦人年に第一回シンポジウムを開き、昨年は東日本と西日本にわかれてミニシンポをつみあげてきての第二回シンポジウムだったが、今回の特徴点をあげるなら、母性をもった人間としての女性の研究と母性の両方の保障を求めることはけつてぜいたくでも甘えでもなく、多くの働く婦人や母親たちと共通した「人間として生きる権利」の要求なのだという認識が、実行委員会の準備過程でも参加者のなかからも広まっていたように思われることである。同時にこのことは日本の科学・学術研究が、戦争や大企業業の利益のためではなく、「人間の権利のために行なわれなければならない」という理念をも導くことになるだろう。シンポの後、ビールならぬコーヒード。乾杯。した実行委員会のひそかな自負でもあった。(米田佐代子)

自分を愛する本 — さわやかな女へ — 1300円 BOC刊 を買って下さい!

<ミニ>で紹介した「自分を愛する本」が出版されました。内容については本号の巻評をご参照下さい。同評のように女が書き、女が喜ぶし、女が読んで、女が売って113本です。自社出版(女性問題関係)のためかえてゆきた11BOCにとっては、大げさなうえは社運にもかけて出版したものです。お申し込みには送料1000円(送料160円)いたします。郵便振替用紙を同封いたしますので、ぜひお買い上げ下さいませようお願ひいたします。皆様のご協力とご愛顧を、心よりお待ちしております。 BOC 職員

読む

烙印の女たち

澤地久枝

「女心をとらえつづけ、欺きつづけた男の所業は、殺人者となった女以上に酷薄無残で」とあるとは「真摯に人生に立ち向かう」女、八文字美沙子さんへの澤地さんの泣きである。

「別れるときの泥まみれで錯綜した愛憎ドラマ」を見る思いの三船敏郎離婚裁判事件に関わっては、澤地さんは「駄目になってしまった夫婦は、別れた方が幸せ」なのだ。失われた愛情に男も女も執着せず、離婚がもっと自由になる社会」が来るべき

だ、と遠くに想いを賭ける。

克美茂／殺人・死体遺棄事件は元トルコ嬢であったが故に、殺されてもなお烙印づけられた女が、いかに男に惚れていたかがわかって痛々しい。女の残した多くのメモから、克美が彼女から錬金術師がわりに金を巻きあげていたことは明らかなのに、裁判所はまともに取りあげようとしなかった。これは「死者を憐れむことになろう」と、克美の情状酌量をした裁判に疑問をぶつける。裁判や報道が女の犯罪に対しては、常に彼らの偏見をなすりつけてきたのだ。女は長い間犯され続けてきた。身も心も理性も。それらを自分の手に奪還しようと歯向かい叛逆した女は、

Agora Mate へあごら千葉 呼びかけ人 田村美佐子さん



三里塚闘争の拠点の一つである成田にほど近い京成線佐倉の駅で初めて会った田村さんは大柄で口数の少ない、しかしとても冷静な判断力を持った人という印象を受けた。

七月に二人目の子供を出産してただいま産休中。勤め先の公民館では老人を対象にした社会教育の相談役を引き受け、また結婚改姓に反対する会を推進し、「女のかからだ」ティーンに積極的に参加するといったエネルギーを活動家だが、相手の言うことにじっと耳を傾け、こち

らの第一印象に違わず、沈着冷静に物ごとを判断する力は必ず「あごら」にとって強力な武器となることを確信している。

とはいえ私を含めて彼女の呼びかけに応じた三人（〇八二人、専業主婦一人）とはまだ一度も一緒に会合の場を持っていない状態であるが、基本的に「あごら」の主旨に同調する以上、あせらずじつくりと腰を落ち着けて婦人問題と取り組むつもりである。

(N)

その行為の事実以上の強さで社会や男たちから裁かれ、時としては魔女に、時には毒婦として烙印されてきた。女たちもそれに加担したこともあろう。本書で語られる烙印の女たちは、公には犯罪者の名を冠せられることなくぬくぬくと暮らしているわたしをも告発している。むしろ、烙印の女たちが烙印を逆手にもって戦う女へと変わるためにも、犯罪そのものに対峙できる女の意地が欲しい。

その意地を、六二年の戦いの末に無罪をかちとった加藤新一さんの娘、キクヨさんの「飯を食うたり食わたり……」。阿呆のような一生やねえ」に収斂させては、キクヨさんの肩に荷が喰ひこみすぎる。

黄昏のロンドンから

木村治美著

(講談社 八八〇円)

著者はアメリカ文学研究者。夫君の仕事の関係でロンドンに八か月滞在。その間の見聞を「ロンドン通信」として「英語文学世界」に連載したのをまとめたもの。

衣食住の身近な問題から、英国病のこと、福祉、教育、ポルノまで内容も豊富だし気楽に読める本だ。かつて七つの海を制覇した英国は、

植民地の独立を応場に認めて、幾つものれんわけをした形で、今だに「旦那さん」と奉られているが、人口の七割を占める移民と、外国からの出かせぎ人に労働を委ねている。行届いた福祉と階級意識が労働者の向上心を押さえ怠慢にし、いわゆる英国病はだんだん悪化してゆく。優雅には見えるが行先さびしい英国。たそがれのロンドンの街角に立つて、著者はそれをひしひしと感じたという。

英語を話せない小二と小六の二人の子供を公立の小学校に転入学させて、児童福祉の行届いていることにも感心している。「特別お世話になります」と頭を下げる必要もないほど、学校側は当然の事として英語の初歩から教え、友だちは補習に力を貸してくれる。数校の転入生をバスで集めて特別訓練もしてくれる。国の経済は火の車でも、子供は社会のもの、お金も時間もたっぷりかけて守ってくれるとは、何と行き届いたこと。物まねじょうずの日本でなぜ早くこういうことを取入れないのだろうか。

英国の老婦人は、はでに着飾って外見豊かに見えるが、精神的には孤独で、権利ばかり主張するギスギスした人が多いという。長い間レディファーストに慣れ、男に甘えてきた女のなれの果ての姿ではないのか。何事にも甘えすぎるといことは恐ろしい。常に遠い目で、そして外側からも自分を見ながら歩いていかなければ、とあらためて思った。(ね)

自分を変える本

リン・ブルームほか著

(PHP研究所 八八〇円)

自分を変えたくないと思っている人は読まないほうがよい。読んだとしても効果はない。でも、今日の自分を明日はちよつと創り変えたいと思っている人にとっては、きつとひつかるところのある本だ。

はじめのほうは少ししんどい。めんどろだったなら飛ばしていきなり第四章から始めるとよい。主婦としての自分の苦しみをかたわらに眠る夫にどう伝えれば理解してもらえるのか、ひとり涙する「二一ナの話」には、共感する人が多いだろう。

この本の一番いいところは、「そう、そうよ、私もそのとおり……」と共感を誘うだけでなく、「ではどうすればいいのかわかる」を自然自然に会得する「実用書」だということである。しんどいのを我慢して読んでいるうちに、自分の中の壁が、いつのまにか取り払われているのに気がつく。

アメリカの女流心理学者たちが、
「アサーティブ・トレーニング」という心理療法の数百の事例の中から最も普遍的な例を選び出し、計算して構成した、自己解放・自己変革の「実践書」なのである。ヘンシーンしたい人は、何となくあれこれ読む。女が書き、女が訳し、女が印字し、女が売っている本でもある。(BOC 出版部 三五二ページ 千三百円)

かたちで示して討論する

企画とページ割りが決まると、各ページの大体のレイアウトを考えます。

これは、建築の例で言えば、「ここは応接間にしよう。応接間にはテーブルを置いて、いすを置いて……」と考えるようなものです。といって、しろうとの人に、いきなりレイアウトなどと言っても、それだけでビビってしまうかもしれません。そんなに大げさに考えなくてもいいのです。気に入った雑誌の気に入ったページを持ち寄って「こんな感じでどうかしら」と話し合ってみると、仕事はすすみやすくなります。

やさしい編集6へあごら実務シリーズ

財布の中味と相談する

この場合注意したいのは、またしてもお金の問題です。シックな北欧調の家具を入れ、冷暖房を完備すればステキだとわかっていても、総予算がありますし、一部屋だけで総工費（総印刷費）が飛んでしまうといったことにもなりかねません。

また、南側に窓をつけたいと思つていても、隣りと近接してつけれない、あるいはいつても無意味ということがあるのと同じように、印刷上の制約がある場合もあります。

たとえば、今はグラフィック全盛の時代

これは、それぞれの人の思いちがいを防ぐのにもいい方法です。かりに企画会議で応接間と決まったとしても、ある人は、名前は応接間でも、リビングルームを兼ねたもの、というふうに解釈しているかもしれない。また、ある人は、装飾などない、さっぱりしたものになりたいと思ひ、別の人はなるべく華やかなふんいきにしたいと思ひ、っているかもしれない。目で見えるかたちにして提示すると、「アラ、もつと派手にしましょうよ」とか、「もつと文字数を多く」とか、具体的な点までつめることができます。つまり、モデルルームを見て、具体的に考えあうようなものです。

だから、視覚的な雑誌にしようと思ひ込んだけれども、読者が満足するような写真やイラストを集められるだろうかという問題がありますし、集めるとなると法外な費用がかかることも稀れではありません。写真一枚の借り賃が十万とか二十万などということもありますし、ちよつとしたカットでも、二万も三万も要求されることもあります。しかも、そんな高いお金を出して専門家の写真やイラストを入れても、なんとなくアンバランスで誌面がえつておちつかなくなるということもあるのです。工賃も割り高になります。活版印刷の場合には、写真や絵は、別に写真版・凸版という金属製の版をつくらなければなりません

んが、これは一センチ四方で十円とか十五円とか別計算で追加料金になります。オフセット印刷の場合は凸版はいりませんが、カメラ撮りと言つて、その分だけ製版料が高くなります。まして色刷りなどにすると、色を分解する費用、印刷を色数だけ何度も刷る費用などで、たいへん高価なものになります。家計を切り盛りする主婦の苦勞と同じで、限られた予算の中で、どれだけみんなの希望を満たすものをつくるか、というのが、編集者の腕のふるいどころにもなるわけです。

原稿依頼は一つの契約

こうして、だいたいの出来上がりについて議論が終わったところで、原稿依頼を始めます。

これは、企画で決まった幾つかの部屋の施工を依頼するようなものです。まず、工事を引き受けてもらえるものかどうか承諾をとり、承諾が得られたら、いつまでに、どんな仕様で仕上げてもらいたいのか、きちんと説明しなければなりません。具体的には、内容、納期、枚数などを正確に打ち合わせる必要があります。この打ち合わせが不十分だったり不正確だったりすると、あとになっていろいろなゴタゴタが起こります。

まず多いのは、「こんな内容のつもりではなかった」というグチです。編集者の意図していた内容と、できあがった原稿内容がちがっていたとしたら、第一に考えられるのは、編集者の説明不足か説明下手、第二は相手の聞き下手でしょう。書き手が専門家

の場合には、内容について不明な点があればどこまでも質問してきますし、その質問によって編集者自身が勉強するというところもあるくらいですが、PTAの会報や仲間の会誌などで、相手がしろうとの場合には、とかく聞きちがいが起こりがちです。どんな雑誌で、どんな内容であり、どういふ人が読むのか、念には念を入れて十分説明するとともに、見本誌や、その号の企画書、執筆条件のメモを渡しておくときき違ひがなくなりします。専門の出版社では一定の様式で原稿依頼書を発行しますが、これほど大げさなものでなくても、内容の概要、締切り日、枚数、謝礼などをきちんと書いておくことは必要です。

とかく、「ミニコミだからいいだろう」という思いこみが多いのですが、専門の編集者や専門の事務職員がいらないミニコミだからこそ、「施工者に対する契約」と考えて、きちんと手続きをすることがたいせつです。原稿の枚数も、ただ何枚ではなく、四百字詰め何枚とか、二百字詰め何枚とか書いておくこと。あらかじめレイアウトが決まっている場合は、何字詰めで行何程度とお願いし、できればその字詰めを書いて頂くと、たいへんらくです。

特にたいせつなのは、謝礼の問題です。日本人の悪い習慣で、とかくお金のことは口にしない傾向があるうえ、「ミニコミなんだからお札はないのが当たり前」などというつもりで説明しない人がいますが、書き手のほうは、もううつもり、かもしれせん。予算がないならないで、最初にはつきりお断わりし、それでだめなら別の執筆者をお願いすることです。（せがわ・ともこ）

〈女のつどい・女の講座〉

日	時	テ	マ	会	場
9月10日(土)	10:00~12:00	ヨガ教室 指導——岡島	〈フリースペース〉 毎週土曜日	フリースペース	044-977-2148
	14:00~17:00	黒川俊雄著「社会政策と労働運動」読書会	〈婦人問題懇話会・職場問題分科会〉	新里昭子氏宅	03-704-0688
	18:30~	男の料理を女が食べる会 作る人——津村喬	〈ホーキ星〉 予約制	ホーキ星	03-341-9364
11日(日)	14:00~	駆け込みセンターの今後のあり方	〈行動を起こす女たちの会・離婚分科会〉	あごら読書室	03-354-9014
12日(月)	19:00~	月曜講座・浅利式色彩診断法の実践と応用——末永蒼生	〈フリースクール〉	西荻ホビット村	03-332-1187
13日(火)	18:00~	アジアと女性解放を語るタベ 「しばられた手の祈り」上映ほか	〈アジアの女たちの会〉	渋谷勤労福祉会館	
	18:30~	マスコミの女性差別とどう闘うか	〈行動を起こす女たちの会定例会〉	千駄ヶ谷区民会館	03-402-7854
	18:30~	八段錦・太極拳 指導——津村喬	〈からだのひろば〉	千駄ヶ谷区民会館	
14日(水)	13:30~15:30	子どもといっしょにからだを動かそう	〈あんふあんて〉	神宮前区民会館	
15日(木)	18:30~	保育問題を考える	〈あごら北海道〉	北海道クリスチャン・センター	
	18:30~	English for Feminist	〈ホーキ星〉	ホーキ星	
16日(金)	10:00~12:00	あごらミニ10号編集会議	〈あごら東海〉	名古屋勤労婦人会館	
	18:30~	からだのおしゃべり会——山田美津子	〈ホーキ星〉	ホーキ星	
17日(土)	13:30~	主婦分科会例会	〈行動を起こす女たちの会〉		
18日(日)	13:00~16:30	結婚の意味を問う継続討論会	〈藤村 哲〉	豊島区民センター 4 階第 1 会議室	
	18:00~	女たちのダンス・パーティ 飲み物付は600円	〈まいにち大工〉	酒場・偽夜蜜	
19日(月)	18:30~	労働分科会例会	〈行動を起こす女たちの会〉		
20日(火)	18:00~21:00	丸岡秀子著「田村俊子とわたし」について 報告——室山佳子	〈婦人問題懇話会・女性史研究会〉	文化服装学院出版局 3 F 応接室	
22日(木)	18:00~	中学校社会教科書およびマスコミにおける男女差別についての調査	〈婦人問題・マスコミ、日常生活分科会〉	私学会館 1 F 喫茶室	
	18:30~	あごら大会実行委員会	〈あごら東京〉	あごら読書室	
24日(土)	14:00~16:00	婦人民主クラブ歴史講座・①東アジアの中の日本古代——松本清張	毎月第 4 土曜日 申込み、詳細は婦民へ	千駄ヶ谷区民会館	
	17:30~	無言のままでいられない——在日韓国人不当逮捕者支援コンサート——白竜、ホン・ヨンウン、小室等、中山千夏他	前売 1300円	目黒公会堂 問い合せ	03-269-4619
26日(月)	19:00~	月曜講座・絵本と生活——田島征三	〈フリースクール〉 200円	西荻ホビット村	
27日(火)	18:30~	共学をめざす小冊子の編集会議	〈行動を起こす女たちの会・教育分科会〉		
30日(金)	18:30~	女のうた——中山千夏	〈ホーキ星〉 予約制	ホーキ星	

(この欄に掲載ご希望の方はハガキでお申し込み下さい。掲載無料——〒160 東京都新宿区新宿 1-9-6 〈あごらミニ〉編集部)

各地の〈あごら〉例会案内

□あごら北海道

・保育所アンケート中間報告とあごらミニ11号編集会議
 ・9月15日(木) 午後6時30分~8時30分
 ・札幌教会(北1東1) 011-2221124 山口里子

▽問い合わせ ☎011-2622446 山口里子

□あごら東京

・「へあごら」17号編集会議 調査の集計と分析
 ・9月9日(金) 午後6時30分

・あごら全国大会実行委員会

・全国のあごらの会員、読者の出会いとなるのは初めての大会。成功させるために一人でも多くの方のチエと力と情熱を！
 ・9月22日(木) 午後6時30分

□あごら東海

・「へあごら」ミニ10号編集会議

・はじめて地方巡業にでた「へあごらミニ」を「へあごら東海」で迎えることになりました。一人でも多くの人の参加を待っています。
 ・9月16日(金) 午前10時~12時
 ・名古屋勤労婦人会館

▽問い合わせ ☎052-6210839 高橋ますみ

□あごら九州

・会のすすめ方をめぐって

・10月1日(土) 午後1時30分~午後5時

・福岡市婦人会館 桜の間

▽問い合わせ ☎092-5217624 小島豊子

〔編集後記〕

創刊以来酷評を受け続けてきた「ミニ」。何とか脱皮をはかりたいと思いましたが「へあごら東京」の力量不足。次号から各拠点で「巡回制作」することになりました。きつと、ずっと生き生きとしたいい紙面になること期待しています。毎号「時間切れ」でフーッ言っていました。さて当分制作できないとなると、言い足りなかったことはかり思ひ出されます。
 (事務局)